

実績報告書

届出者	住所	大阪市浪速区敷津東1-2-47	氏名	株式会社クボタ 代表取締役社長 木股 昌俊
特定事業者の主たる業種		26生産用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		機械事業（農業機械、エンジン、建設機械等）、水・環境事業（ダクタイル鉄管、バルブ、ポンプ、素形材、精密機器、各種環境プラント等）及びその他事業（各種工事設計・施工等）の3事業セグメント区分にわたって、多種多様な製品・サービスの提供を行っている。 大阪府内に本社所在地がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	117,775 t-CO ₂	121,531 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	126,607 t-CO ₂	130,445 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	5.8 %	-3.7 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	6.0 %	-3.7 %	7.2 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の事業所の総生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

第3年度(29年度)は、引き続き、設備の高効率化や運用改善などの省エネ活動に取り組んだ。 温室効果ガスの削減率(原単位ベース)は基準年度比で7.2%の削減となった。

(2) 推進体制

<p>当社グループの「環境保全中期目標」の中で、CO2排出原単位及びエネルギー使用原単位の削減目標を定め、CO2削減に向けた活動に取り組んでいる。</p>
<p>2014年度に「環境経営戦略会議」を設置し、CO2削減や省エネルギーをはじめとする、環境負荷削減に向けた取り組みを経営層主導で推進している。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	堺製造所	コード (5221) コンプレッサー 更新	コンプレッサーを更新等する(年間327 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効率 タイプへの更新	A 1棟本機2課 塗装Cライン空調機を更新する:平成28年度実施(年間5t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効率 タイプへの更新	A 1棟組立/本2 空調機を更新する:平成28年度実施(年間8t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効率 タイプへの更新	C 3棟Bトラ膳装ライン 空調機を更新する:平成28年度実施(年間4t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効率 タイプへの更新	厚生棟厨房盛付場 空調機を更新する:平成28年度実施(年間5t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	堺製造所	コード (1222) ソーラーパネル による発電	太陽光発電を追加する:平成28年度実施(年間21t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	堺製造所	コード (1218) LED照明への 変更	照明をLED化実施完了(蛍光灯)(年間10t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効率 タイプへの更新	C 1棟本機2課 Mトラ膳装空調機を更新完了(年間4t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	堺製造所	コード (1216) 空調機の高効率 タイプへの更新	A 1棟組立課 空調機を更新完了(年間12t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	堺製造所	コード (1214) コージェネレー ション発電機の 導入	コージェネレーション発電機を導入完了(年間372t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
11	レ GHG排出	堺臨海工場	コード (1218) LED照明への 変更	【第一工場】 蛍光灯及び天井照明でLED化未実施箇所をLED化する(H29年度実施分で年間4t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
12	レ GHG排出	堺臨海工場	コード (1215) コンプレッサー の高効率化	【第一工場】 導入後30年以上経過した160kWコンプレッサーを、効率の良い物に更新する(H28年度完了、年間37t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
13	レ GHG排出	堺臨海工場	コード (1113) 生産性向上による 待機電力の削減	【第一工場 加工職場】 遊休設備を改造し、ラインT・T短縮(△10秒)することにより、待機電力の削減を行う(年間CO2削減)(中)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

			減	(年間3t-CO2を削減)(中止)		
14	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード (1216) 屋上緑化による空調負荷低減	【第一工場 事務所エリア】 屋上緑化を行い、遮熱効果により空調負荷を低減する(H29年度実施、年間2t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度
15	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード (1126) モーターの高効率化	【第一工場】 設備のクーラントポンプ等を更新し、モーター効率化(IE1⇒IE3)による電力低減△30%を図る(年間15t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
16	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (1113) 操業体制見直し、溶解電力低減	操炉見直しによる湯待ち時間の減少を図る(操炉見直しを実施しているが、素形材部門生産量減少によりCO2排出原単位H29年度20t-CO2増加)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
17	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (1114) 集塵機の電力低減	集塵機老朽対応による効率向上、濾布(フィルター)の交換による効率向上を図る(集塵機老朽部品更新、ろ布交換実施したが、素形材部門生産量減少によりCO2排出原単位H29年度68t-CO2増加)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
18	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (1114) コンプレッサの電力低減	エア漏れ対策等による稼働台数低減、休日エア運用改善による休日の稼働停止を行う(3直2交代による連続稼働の為、休日の稼働停止が出来ず使用電力増。CO2排出原単位H29年度270t-CO2増加)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
19	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (1121) ガス使用量の低減	金棒等の加熱方法改善による効率向上を図る(加熱方法の改善を実施し、ガス使用量減少。CO2排出原単位H29年度88t-CO2減少)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
20	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (1199) 電力負荷の平準化	夏季変則操業、操炉調整による負荷平準化、ピーク電力の低減を図る(夏季変則操業実施と夜勤シフト実施、負荷平準化によるピーク電力の低減を実現。)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
21	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1218) 高効率照明器具の導入(更新)	工場天井照明を高効率タイプのものに更新する(15F仕上職場)(年間17 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
22	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1125) コンプレッサ老朽更新	老朽化した150kW×4台コンプレッサの更新する(年間29 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
23	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1125) 高効率変圧器への更新	第8電気室変圧器(1000KVA)を高効率変圧器へ更新する(年間11.8 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
24	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1218) 高効率照明器具の導入(更新)	工場天井照明を高効率タイプ(LED)のものに更新する(三次元測定室)(年間1.47 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
25	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1125) 高効率プロアアの導入	集塵機プロアアを高効率タイプのものに交換し電力使用量を低減する(バラシ場集塵機)(年間94 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
26	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1126) 電気式空調機の導入(更新)	厚生棟3階の空調機を更新による省エネ(年間12t-CO2を削減)(完了)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
27	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1125) 高効率プロアアの導入	集塵機プロアアを高効率タイプのものに交換し電力使用量を低減する(砂処理環境集塵機)(年間18t-CO2を削減)(完了)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
28	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1125) 高効率プロアアの導入	集塵機プロアアを高効率タイプのものに交換し電力使用量を低減する(ポリゴン集塵機)(年間38t-CO2を削減)(完了)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
29	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1218) 高効率照明器具の導入(更新)	工場天井照明を高効率タイプ(LED)のものに更新する(溶解、キューラ、LFP、出荷場)(年間117t-CO2を削減)(完了)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
30	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1199) ファン停止に伴う省エネ	ES冷却ファン停止に伴う電力低減を図る(年間241 t-CO2を削減)(完了)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度

31	レ	GHG排出	本社	コード (1111) 電力使用量の抑制	エコオフィス運動を実施し電力削減の進捗確認、対策徹底、強化推進を図る。エコに関する案内「エコ通信」の配信を定期的実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
32	レ	GHG排出	本社	コード (1218) LED照明への変更	本社照明を蛍光灯からLEDに入れ替える(年間64t-CO2を削減、年間125kWhの使用電力の削減)(完了) ※実績(平成28年11月～翌年3月)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
33	レ	GHG排出	本社	コード (1215) エレベーター老朽更新	エレベーターの老朽更新を実施する(年間29712kWhを削減) 実施期間：平成28年6月～平成29年5月 ※実績(平成28年6月～翌年3月)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
34	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード (1216) 省エネ型空調設備への更新	低効率の空調設備を高効率のものに更新し使用エネルギーを削減する(H27年度GHP(1台)更新で年間1.75t-CO2を削減、H28年度GHP(1台)更新で年間0.18t-CO2を削減)(完了)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
35	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード (1216) 省エネ型空調設備への更新	老朽化した吸収式ガス空調機を高効率空調機に更新し、ガス消費量を削減する(H28年度1台更新で年間12.3t-CO2を削減)(完了)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
36	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード (1218) LED照明への更新	工場照明を水銀灯からLED式に更新する(年間108t-CO2を削減)(完了)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
37	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード (1218) LED照明への更新	工場照明を蛍光灯からLED式に更新する(年間34t-CO2を削減)(完了)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
38	レ	GHG排出	新淀川環境プラントセンター	コード (1215) コンプレッサー老朽更新	老朽化した3.5kWと7.5kWのコンプレッサーを1台に集約して更新する(年間0.2t-CO2を削減)(完了)	2014 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
39	レ	GHG排出	新淀川環境プラントセンター	コード (1215) 曝気ブロー間欠運転	合併浄化槽の好気曝気ブローを24時間運転から脱窒の為、8時間運転とする(年間1.5t-CO2を削減)(完了)	2013 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
40	レ	GHG排出	新淀川環境プラントセンター	コード (1218) 照明のLED化	研究室4, 5の天井照明LED化(完了)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
41	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (1126) 空調機更新	空調機(10台)の更新による省エネ(年間4.9t-CO2を削減)(H29年度完了)	2017 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
42	レ	GHG排出	本社	コード (1216) 空調機更新	本社ビルのGHP更新による省エネ(年間29.6t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (2114) 点検・維持管理の励行	管理車両の法定及び自主点検を励行し、維持管理の向上を図る(点検を適切に実施し、適切な維持管理の励行)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	枚方製造所	コード (2123) エコドライブの啓蒙	社用及び通勤車両のエコドライブ推進を推進しリース更新時のエコ車両採用を検討する(朝礼放送でエコドライブの効果について紹介しエコドライブ推進を啓蒙)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	恩加島事業センター	コード (2113) 社用車の近距離運転の制限他	①自転車やバスを利用し、社用車使用を制限する②エコドライブの推進③乗車毎に車両点検を実施し、不具合あれば都度、整備を実施する(継続中)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	GHG排出	本社	コード (2121)	①社内免許保持者対象の講習会にて、エコドライブ	2015 年度

4	レ	人工排熱		低燃費車の導入	イブについても触れ、エコドライブの実施に努める。②リース更新時もは、エコ車両採用を検討する(継続中)	～ 2017 年度
5	レ	GHG排出	久宝寺事業センター	コード (2123)	ドライブレコーダ設置によるエコドライブの推進を図る(関連会社の社用車22台にも展開(完了))	2015 年度
	レ	人工排熱		ドライブレコーダによるエコドライブの推進		～ 2017 年度

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号	氏名	株式会社クボタケミックス 代表取締役社長 田畑 勝治
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>水道・下水・電力通信等、各種用途の塩ビ管・継手、水道・ガス等のポリエチレン管・継手の製造業。（大阪府内の生産拠点は堺工場のみ）</p> <p>生産拠点は堺の他、小田原、栃木にある。</p> <p>販売拠点は本社、東京本社、北海道支店、東北支店、中部支店、四国支店、中国支店、西日本支社にある。</p> <p>H28.5.1クボタシーアイ（株）から（株）クボタケミックスに社名変更。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日（3年間）

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（2014）年度	前年度（2017）年度
温室効果ガス総排出量	5,992 t-CO ₂	5,979 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	6,607 t-CO ₂	6,588 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)	
選択	レ	削減率（排出量ベース） %	%	%	%	
		削減率（原単位ベース）	3.0 %	-3.7 %	0.3 %	2.7 %
削減率（平準化補正ベース）		-	%	-3.8 %	0.2 %	2.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率（原単位ベース）を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（内作生産数量（トン））
（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解（計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由）

<p>環境保全中期計画とISO14001目的・目標を連動させ、場内の水銀灯のLED化、チラーの高効率化、モーターのインバーター化等を推進し、削減目標達成に向けて継続して取り組み、H29年度は基準年度比2.6%減。</p>
--

(2) 推進体制

- ・環境保全中期計画の中で地球温暖化の防止の一環として、CO2の削減等の推進項目を定め、推進している。
- ・ISO14001環境マネジメントシステムの中で、省エネテーマを毎年登録し、温室効果ガスの抑制を組織的に推進し、毎月の環境対策会議でテーマ推進状況を確認している。

- ・自動車における温室効果ガスの排出抑制対策について月度毎の燃料使用量・走行距離を把握し、燃料管理を行うと共に、環境月間教育の機会を活用し、エコカー運動啓蒙活動を推進している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 不良率低減による電力削減	不良率を低減することにより、粉碎及び再加工に掛かる電力を削減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 規重差率向上による電力削減	規重差率向上により消費電力の低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (5221) 高効率チラーへの更新	R22の全廃規制に対応するため、場内に設置するチラー (11台) を順次、高効率チラーに更新する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 場内照明のLED化	場内照明のLED化による消費電力の低減	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (5221) 主モーターのインバーター化	押出機主モーターのインバーター化による消費電力の低減	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1225) 金型取り個数変更による原単位の向上	金型取り個数を変更し、生産性を向上することで、消費電力の削減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (5221) 油圧ユニットのサーボモーター化	射出成形機の油圧ユニットのモーターをサーボモーター化して消費電力の削減を図る。	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (2114)	運転前のタイヤ圧状況確認、急発進・急停止の禁止、走行距離、ガソリン使用量の管理	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2121)	車両更新時の低燃費車への切り替え	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

本社事務所での対策として以下を継続している。

- ・蛍光灯の間引き
- ・昼休みの消灯
- ・ノー残業デー
- ・クールビズによる冷房消費電力削減
- ・OA機器省エネ（設定、省エネ機器導入）

実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市美原区木材通4-15-5	氏名	クボタ精機株式会社 代表取締役社長 川上 寛
特定事業者の主たる業種		32その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		農業機械・建設機械等の油圧製品の加工及び組立		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	8,254 t-CO ₂	8,826 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,000 t-CO ₂	9,634 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	4.1%	-0.3%	-4.6%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.4%	-5.0%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (粗付金額(売上金額-材料及び外注加工費等))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>対策計画書に有るエネルギーの削減を進めてきましたが、結果原単位基準の粗付金額が基準年(H26)に対し1.3%と微増に対し電力使用量が5.7%増、都市ガス使用量が14.5%と大幅に増えてしまい計画通り削減することができなかった。また売上。粗付額が当初予定(対策計画)より大きく落ち込んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. H28年度はGHPガスヒーポンを5基更新実施28%削減/1基当たり(GHP対比) 2. ガスヒーポン室内外機の計画的清掃の実施。 3. 外灯を水銀灯からLEDランプに交換(5か所)・蛍光灯のLED化(80か所)の実施。
<ol style="list-style-type: none"> 4. 夜間等電源停止、エアリーク早期対策及び水銀灯の消灯対策等を継続実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 電気使用量：基準年度対比755千Kwh(5.7%)増 2) 都市ガス使用量：基準年度対比80千m³(14.5%)増

(2) 推進体制

ISO14001環境マネジメントシステムに則り環境・エネルギー管理組織を構成し、温暖化対策を進めるにあたっては省エネルギー推進委員会を立ち上げ省エネ対策に継続して取り組んでいます。
又、GHP室内外機点検、清掃に関しては別途管理表により計画的に専任業者にり推進している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1215) 未稼働設備の電源遮断	休日・夜間等の未稼働設備の電源停止 (継続) 予想効果：15 t-CO ₂ /年	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1216) エア-漏れ対策	エア-漏れの早期対策(継続) 予想効果：50 t-CO ₂ /年	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1216) ガスヒートポンプ設備の更新	省エネタイプの高効率ガスヒートポンプ設備の更新 (15基/3年間) H29年度実績：5基 予想効果：10 t-CO ₂ /1基/年 (15基/15年) 150 t-CO ₂ /年	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1114) 空調機器の清掃管理	ガスヒートポンプ設備の室内外機の清掃管理を行い、効率UP (業者委託) H29年度：管理表により順次実施 予想効果：上記効果に含まれる。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1215) デマンド装置導入	デマンド監視装置導入によるライン毎の設備の適切な運転管理を実施。 H29年度：建屋毎に電力の見える化実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1216) 新冷媒採用エアコンに更新	オフィスエアコンの更新 新冷媒採用エアコンに入れ替える。 H29年度：2台更新済み 予想効果：現行機比CO ₂ 削減30%以上見込み	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1215) ヒーター内臓設備の設定温度調整	洗浄機等ヒーター設備の設定温度60℃を50℃に下げる。及びヒーター電源停止 (夏季3ヶ月間) H29計画通り実施 予想効果：10 t-CO ₂ /年	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1218) 照明機器のLED化	水銀灯 (400W)、蛍光灯をLEDに変更する。 H29年度：外灯5台 LED化80台 予想効果10 t-CO ₂ /年	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (1215) 特別高圧受変電設備の導入	省エネタイプ特別高圧受変電設備の導入検討 H29年度より工事着工 H30年末完了予定	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
10	GHG排出	クボタ精機(株)	コード (4210) 2重屋根	空調機の効率UP 2重屋根化 H31年まで順次2重屋根化計画推進中 H29年度は第1棟明り取り用天窓塞ぎ実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--

実績報告書

届出者	住所	東京都港区海岸3丁目20番20号	氏名	クラシエ製薬株式会社 代表取締役 中嶋 洋一
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		漢方薬を中心とした医療用医薬品と一般用医薬品の製造・販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	4,138 t-CO ₂	3,385 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,226 t-CO ₂	3,480 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.7 %	7.5 %	24.4 %
削減率(平準化補正ベース)		-	7.4 %	20.7 %	23.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(エキス粉末出来高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第3年度に24.4%の削減が達成でき、計画達成にむけ順調に取り組みが来ています。今後も環境保全を配慮しながら省エネルギー、CO₂削減を進めてまいります。</p>
--

(2) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムの認証取得をしています。地球温暖化に対して委員会を設置し、毎月エネルギー使用状況を報告し、現状改善などを検討するとともに環境に関わる従業員教育を実施しており、推進体制を継続しています。又、小集団活動として省エネ活動に取り組んでいます。
 推進にあたっては、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに沿って、活動結果を常に検証し、全従業員の意識向上と創意工夫により改善の成果を積み上げています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1111) 温暖化対策の教育を徹底する	環境マネジメントシステムの運用を徹底し定期的な温暖化対策に関する社内教育を行う。 ・計画期間中は継続実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1112) データ等の活用によるエネルギー管理の実施	エネルギー消費動向をデータやグラフ等で把握し、エネルギー管理を行なう。 ・月単位で集計し、使用状況を従業員に報告	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1114) 定期的な検査、点検の実施	ボイラーや市水受水槽、各設備等の定期検査、点検を実施し、良好な状態を維持する。 ・メーカーによる定期的に点検を実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1221) ボイラーの更新と計量機器の設置	灯油の炉筒煙管ボイラーから、ガスの貫流ボイラーに更新を行なう。また、蒸気流量計を設置し、蒸気使用の動向を把握する。 ・平成27年度にボイラー更新済み。	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1218) 不要なエリアの照明消灯の徹底	工場内で不要な照明の消灯を徹底する。可能な範囲で照明を間引きする。 ・継続実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1216) 空調温度の徹底	空調温度を夏場は28℃、冬場は20度に設定する。 ・チェックリストにて管理実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1221) 燃料転換	熱風炉の燃料転換 (灯油→都市ガス) ・平成27年度に実施済み	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	高槻第二工場	コード (1216) パッケージエアコンの更新	原料保管エリアのパッケージエアコンを省エネタイプに更新 ・空調機更新計画を立案 1台更新実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区久太郎町2-4-31	氏名	倉敷紡績株式会社 代表取締役社長 藤田 晴哉
特定事業者の主たる業種		11繊維工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		繊維素材および2次製品の製造・販売、化成品素材、公害関連装置、電子機器等の製造・販売。全国8工場のうち、大阪府内には特定事業所1工場（寝屋川工場）が稼働。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	6,633 t-CO ₂	5,821 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,433 t-CO ₂	6,591 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	6.4 %	10.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	6.4 %	9.8 %	11.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>当社の温室効果ガス削減状況は、目標の3%を大きく上回り、12.3%に達した。要因としては、全社的な省エネ活動に加え、寝屋川工場で平成27年9月に冷水供給用冷凍機を導入したことにより、大きく省エネが進んだ。また、省エネ性能に優れた先進技術センターを建設し、平成28年2月より技術研究所などの事業所が移転したことで、事務所関係の事業所の省エネも進展した。今後も継続的に省エネ活動を実施し、温室効果ガスの排出量を削減する予定である。</p>
--

(2) 推進体制

グループ全体のCSR活動を統括するクラブCSR委員会のもと環境委員会を設置し、グループ全体の環境管理を実施している。また、工場により異なる環境保全の課題に柔軟に取り組むため、環境マネジメントシステム(ISO14001)の導入を推進し、大阪府内の寝屋川工場は2004年に取得している。そして、環境管理レベル向上のため、本社スタッフが定期的に事業所を訪問し、環境監査を実施している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	寝屋川工場	コード (1113) 不要機器の停止	生産工程の都合により、停台している設備について、不要機器の電源を停止している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	寝屋川工場	コード (1113) デマンド管理の徹底	デマンド管理を徹底し、使用電力量の削減を図っている。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 空調温度管理	室温設定を夏季28℃、冬季20℃で管理し、無人室等、不要な空調はこまめに停止している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1113) エレベータ使用方法の改善	出勤時等を除き、半数のエレベータを休止している。上下2階までは階段使用を推奨し、休日のエレベータホールの照明は節電している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 節電意識の徹底	昼休憩時、無人室を消灯している。また、パソコン、機器類は不使用時に電源を停止している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) 省エネ機器の導入	省エネ機器の積極的導入およびインバーター化を推進している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全事業所	コード (1111) 啓蒙活動の実施	従業員の啓蒙活動・省エネ提案を実施している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	アネックスビル	コード (1199) テナントへの協力要請	テナントへ省エネ協力を要請している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪本社、技術研究所、寝屋川ビル	コード (1113) 照明・空調の抑制	空調運転時間の短縮および終業時以降の強制消灯を実施している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの推進	全ての社用車で、運転時にエコドライブを実施している。(アイドリングストップ、急発進、急停車を避ける等。)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2126) 輸送の効率化	目的地までの効率的なルート選定を行っている。(営業で使用する場合、距離の近い複数の顧客を訪問する等。)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	寝屋川工場	コード (2224) 輸送効率の向上に向けた協力	輸送を委託する際、他社との共同輸送、帰り荷の確保等を検討している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

4	レ	GHG排出	寝屋川工場	コード (2225) 積載率の向上	輸送を委託する際、製品の重量、形状等を考慮して最適な輸送ロットを決定している。また、輸送量に応じた自動車の使用を要請している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区内神田2-3-4 S-GATE大手町北5階	氏名	株式会社グランビスタ ホテル&リゾート 代表取締役社長 須田 貞則
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,655 t-CO ₂	2,818 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	3,978 t-CO ₂	3,051 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	2.7 %	5.7 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	5.3 %	6.3 %	5.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(宿泊人員)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>29年度対策は前年度よりの対策を引き続き継続しました。また契約満了により平成30年1月5日にて営業を終了しました。</p>
--

(2) 推進体制

<p>・省エネ実行委員会を設置し、推進を進める。・夏季と冬季の節電要請期間に応じた対策を進める。</p>
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1218)	宴会場ロビー・食堂店舗内順次入替 LED球への入替	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1218)	バックヤード中心に間引きによる減灯 減灯	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1113)	適切な温度管理 こまめな入り切り 空調機器の適切な 運転	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1113)	業務用エレベーター一部停止 エレベーター運 用見直し	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1113)	客用エスカレーターの一部停止 客用エスカレー ター運用の見直 し	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1113)	客室稼働に応じフロア単位での売り止めを行い 空調と照明を停止 稼働に応じ売り 止め	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (1216)	空調温度設定の見直し 温度設定の見直 し	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (5231)	パブリックウォッシュトイレ保温便座夏季停止 温水便座保温停 止	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	ホテル大阪 ベイタワー	コード (5113)	パソコン・コピー機 (複合機) の省エネモード 設定の徹底 省エネモード設 定の徹底	2015 年度 ~ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ~ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

		大阪府和泉市テクノステージ 2-3-30		株式会社クリーンステージ 代表取締役 山本 保
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		88廃棄物処理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		産業廃棄物処理業（中間処理） k・kサーモセレクト方式ガス化改質設備による一般廃棄物および産業廃棄物の処理処分業、一般並びに産業廃棄物の再生業および再生品の販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2015 年	4 月	1 日	2018 年	3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	25,479 t-CO ₂	23,806 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	25,979 t-CO ₂	24,294 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	6.0 %	20.2 %	13.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	20.1 %	13.9 %	14.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(廃棄物処理量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・ピット内の水銀灯(12灯 365日24時間点灯)をLEDへ交換を実施。 ・実施可能な機器の間欠運転及び90%負荷運転等の実施。 ・不必要機器の停止。

(2) 推進体制

弊社運営管理規定に定める「エネルギー管理要領書」の推進組織に準拠するとともに、エネルギー使用量の削減・推進等の省エネルギーに関して年1回従業員に対して教育を実施している。また、改善提案制度を取り入れてのエネルギー改善・業務改善の実施を継続して行っている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (1123) 排熱の回収及び有効利用	ボイラー設備にエコマイザー装置の設置 (年間270t-CO2の削減) ※取止め※ ・場内に設置スペースを確保できない為。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (1126) 電動機の効率化と消費電力削減	ボイラー設備誘引通風機のインバータ化 (年間32t-CO2の削減) ※取止め※ ・大型のインバータになり、制御盤を増設する必要があり、場内に設置スペースを確保できない為。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (1126) 電動機の効率化と消費電力削減	施設内外灯 (水銀灯) のLED化及びエコ型照明の導入 (年間10.05t-CO2の削減) H28年度一部実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (5112) 照明の間引き及び不要時消灯の徹底	事業所内での照明の間引きの徹底及び、照明不要時の消灯の徹底 H27年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (5211) 自家発電の利用	弊社設備で精製・改質されたガスの安定供給を行い、平均1200kw/h以上の自家発電電力量を目指す H27年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社 クリーンステージ	コード (2123) エコドライブの推進	社用車のエコドライブの実施 (年間0.054t-CO2の削減) H27年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

		大阪府堺市西区築港浜寺町4番地		株式会社 クリオ・エアー 代表取締役社長 永野 典郎
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は、空気液化分離プラントにより工業ガスとして液化酸素、液化窒素、液化アルゴン、酸素ガス、窒素ガス、医療用液体酸素、医療用液体窒素を製造しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	48,094 t-CO ₂	49,790 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	55,778 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	1.1 %	2.9 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・工場内照明灯を白熱球からLEDに計画的に更新実施。 ・日常点検、定期点検による受電設備の健全な維持管理を実施。 ・大型回転機器の最適な運転
--

(2) 推進体制

プラントで製造された窒素ガスを有効活用する一環として、パイプラインで常時供給したことおよびトラブルなく安定操業できたことにより、電力原単位の削減が図られた。月一回の定例会議や定期的な現場パトロールにより最適な運転条件の確立を目指す。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	(株)クリオ・エ アー	コード (1225) 引取量増加に伴 う原単位の削減	関連会社設備の集約による引取量増による原単 位改善	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ~ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区南船場4丁目 長堀地下街8号	氏名	クリスタ長堀株式会社 代表取締役社長 高橋幸夫
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		「クリスタ長堀 地下街」の運営・管理 床面積 36,400 m ² 店舗数 100 店舗 店舗面積 9,500 m ²		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015 年	4 月	1 日	～	2018 年	3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	9,206 t-CO ₂	8,599 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,257 t-CO ₂	9,559 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	4.8 %	5.0 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	4.6 %	5.1 %	6.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

主に地下街通路の照明をLED化。

(2) 推進体制

エネルギー使用実績と目標の対比ならびに問題点の抽出と対策の検討をしております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	クリスタ長堀	コード (1216)	高効率モーターに更新 空気調和設備の 導入	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	クリスタ長堀	コード (1218)	省エネ効果の高い照明設備(LED)に更新する。 29年度は19k1 照明設備の導入	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市西区北堀江 1-12-19	氏名	株式会社 栗本鐵工所 代表取締役社長 串田守可
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		鋳鉄管、バルブ、機械、耐摩耗鋳物、建材、化成品の製造及び販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	75,599 t-CO ₂	68,081 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	78,697 t-CO ₂	70,573 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.0 %	6.6 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-1.8 %	6.7 %	10.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>生産量の減少により、操業体制の見直しを実施した。また、コンプレッサー、空調機等の設備の更新を行い、温室効果ガスの削減を行った。</p>
--

(2) 推進体制

全社(本社・支社店除く)でISO14001環境マネジメントシステムを導入しており、大阪府下の事業所は取得しております。これにより温暖化対策を推進してゆきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード (1215) 省エネタイプの設備に更新	省エネタイプのコンプレッサに更新し、台数制御による省エネも行う。 →H29年度コンプレッサ更新とインバータ化を完了。 H29.11月より台数制御による運用を実施している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード (1125) 低放射遮熱塗装による加熱炉の省エネ	加熱炉に対し、低放射遮熱塗装を実施することで、エネルギーロスを低減する。 →H29年度未実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード (1113) 不良率の低減による省エネ	各部署で不良率の低減を推進管理することにより、エネルギーロスを削減する。 →不良率推移:H26年度2.9%、H27年度3.3%、 H28年度1.8%、H29年度1.2%	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード (1215) 設備改善による電気使用量低減	設備改善及び運用管理強化により省エネを推進する。→H29年度実績なし。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	加賀屋工場	コード (1216) 省エネタイプの空調機に更新	事務所・厚生施設における老朽化した空調機について、省エネタイプの空調機への更新を検討、電力の削減を行う。→H29年度18台の空調機器を新規更新。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (5211) 電気からガスへ転換	30年度に大型空調設備EHP→GHPへの更新を予定している。 また、点在するスポットクーラを集約し、大型空調機への更新を検討する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (1223) 設備更新による省エネ	生産体制の変更に伴う蒸気量、及び使用量の変化を調査。水管式、及び貫流ボイラの稼働率抑制による省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	堺工場	コード (5112) 省エネ器具への変更	工場天井照明のLED化による電力使用量の削減。昨年度の溶解エリアに引き続き、順次LED化を継続している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	堺工場	コード (5221) 設備更新による省エネ	ボイラー更新により都市ガスの原単位向上。 H28年度は各生産プロセスにおける蒸気使用量を把握するために蒸気メーターを設置。データ取得し、今後のボイラー更新計画を立案する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	堺工場	コード (1125) 作業環境改善と省エネ	溶湯丸取鍋、加熱金型などに断熱塗料、および断熱材追加、焼鈍炉内壁の断熱材追加により作業環境改善と省エネを目指す。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	堺工場	コード (1111) 推進体制の整備	環境マネジメントシステムの運用による省エネ活動の推進 部門毎に各年度の省エネ目標を立て、計画的に活動。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	堺工場	コード (1111) 推進体制の整備	環境管理委員会による成果の確認と情報の共有化、及び活動のバックアップ 毎月の会議にて活動の進捗管理を実施。是正処置、予防処置により目標達成を目指す。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) 管理標準の効果的運用	管理標準の運用徹底と定期的な見直し(有効性の確認) 管理標準の運用に問題がないことを定期的に確認。新設設備の管理標準についても新たに作成し管理する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (5121)	操業体制の見直し(鋳造工程の操業目を集約)	2015 年度

14	レ	人工排熱	堺工場	操業体制変更による省エネ	し、エネルギーロスを削減する。一部夜勤操業への移行)	～ 2017 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	堺工場	コード (5999) 電気需要の平準化対策	電気需要平準化時間帯における節電活動項目の設定と運用 不使用設備の停止、空調フィルターの清掃、照明の削減など。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	堺工場	コード (5131) 節電意識の啓発	電気需要平準化時間帯における節電パトロールの実施 (2回/月) 毎回、役付者4～5名にて実施。工場全エリアをパトロールし、改善指摘。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	住吉工場	コード (1113) 空調設備の運転管理	冷暖房設定温度の徹底 →温度管理の徹底を実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	住吉工場	コード (1199) 改善活動の推進	改善活動を通じた作業工数短縮による使用電力量の削減 → 工場照明の更新を実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	交野工場	コード (1113) 基準以上の照度を有する作業場において、蛍光灯の間引きと継続。(82本) 不要な水銀灯・蛍光灯の点数を間引	基準以上の照度を有する作業場において、蛍光灯の間引きと継続。(82本) 不要な水銀灯・蛍光灯器具の取り外し(継続)。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	交野工場	コード (1113) 照明設備及びパソコン電源の節電	400W水銀灯12台をLED型131W×6台とLED蛍光灯45W×7台へ取替。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	交野工場	コード (1199) 節電意識の啓発	夏冬別に省エネ・節電活動項目を設定し、エアコン使用期間・設定温度の厳守等の節電意識を高揚させる。使用されていない蛍光灯、扇風機の指摘で節電の徹底。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
22	レ	GHG排出	交野工場	コード (1199) 節電意識の啓発	冷暖房設備に加え扇風機に依る冷暖気の対流・拡散を実施。コンプレッサ機の直射日光防止よしずの設置。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
23	レ	GHG排出	交野工場	コード (1199) 節電意識の啓発	冬季の工場内冷蔵庫の使用中止。昼食は食堂にて取得させ、各作業場で使用する冷暖房と照明の消費電力を削減。 南側ガラス窓に遮熱フィルムを貼り、冷暖房費用の削減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
24	レ	GHG排出	交野工場	コード (1199) 照明設備の省電力器具への変更	水銀灯400W 71台、700W 8台、1000W 1台外灯 4台をLEDへ取替え、電力使用量の削減。順次蛍光灯の含めLED化する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	住吉工場	コード (2113) 自動車の使用管理	アイドリング禁止PR →実施している	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2123) エコドライブの推進	本社の全車がエコドライブを実施する →実施している	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

		福岡県久留米市東櫛原町353番地		氏名	久留米運送株式会社 代表取締役 二又 茂明
届出者		住所			
特定事業者の主たる業種			44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		総合物流企業として、全国に63店を展開し、内3店を大阪府内で事業しています。			

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
	2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	2,495 t-CO ₂	2,523 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,564 t-CO ₂	2,547 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	1.1%	-0.9%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	1.0%	0.7%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>エコドライブの推進や新長期規制適合車の導入等により、自動車分野における燃料使用量の削減に取り組みましたが、貨物量の増加に加え、お客様サービスの更なる向上を図るために、他社備車の自社化を推進した結果、燃料使用量が増加したため、温室効果ガスの総排出量削減には至りませんでした。</p>

(2) 推進体制

全社的な環境対策として、「天然ガス車への代替」、「排ガス規制適合車への代替」、「車載機器導入によるエコドライブ、安全運転の推進」等を実施及び計画致しております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	大阪支店	コード (1113) 冷暖房運転管理の徹底	冷暖房の温度設定の社内規制及び運転稼働日の削減。冷房は28度、暖房は21度を保ち、年間稼働日数を30日削減する。年間使用量を235kWh以下にする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	北大阪支店	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を実施した。 H27年度燃費基準5%向上達成車を2台導入した。 H27年度燃費基準10%向上達成車を1台導入した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	大阪支店	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を実施した。 H27年度燃費基準5%向上達成車を2台導入した。 H27年度燃費基準10%向上達成車を1台導入した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	東大阪支店	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を実施した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策
